

稅務吏員大會

議場に於て稅務吏員大會が開催され、参加者約八百名、荒木副知事、縣議會議長代理鈴木康四郎氏、坂市町村長根來縣財務協会長の激勵の辭に引續き、關係課長の挨拶の後、第一線吏員の体験並びに意見發表があつた。なほ、別記の通りの宣言が全會一致で議決され今後の稅務行政運營の上に遺憾なからをしめるべく吏員各自の決意を堅めた。

宣 言

經濟事情の變化と徵稅總額の増加は徵稅事務複雜困難を倍加し加うるに、地方自治と地方財政の強化確立を企圖する畫期的稅制改革を目前に控え、われわれ稅務吏員の責務は、愈々重い。われらはこの大會において決意を新たにし、負担の公平と徵收の徹底を期すため幾多の國難を克服し任務の完遂を誓う。右宣言する。

昭和二十五年一月二十一日
和歌山縣地方稅稅務吏員大會

一月二十一日、縣議會

約八百名、荒木副知事、縣議會議長代理鈴木康四郎氏、坂市町村長根來縣財務協会長の激勵の辭に引續き、關係課長の挨拶の後、第一線吏員の体験並びに意見發表があつた。なほ、別記の通りの宣言が全會一致で議決され今後の稅務行政運營の上に遺憾なからをしめるべく吏員各自の決意を堅めた。

日本を訪れインフレを押えて經濟安定の原則を指示した。その原則は政府も地方府縣市町村も豫算の歳入と歳出を均衡化し、收入財源を全部稅收入に置き、赤字公債を發行せしめないことにした。そこで、日本國民が孤々の聲を擧げた赤ちゃんか

ドッヂ大使が一昨年、腰の曲つた老人に

至るまで、一人平均約

一万圓、國稅地方稅を

合せて、七千八百億を

四年度中に納めなければならぬため、徵收末期

改革を斷行しなければならぬため、徵收末期

改革を断行しなければならぬため、徵收末期

(第73號)

(昭和23年3月24日)
(第3種郵便物認可)

「黒潮の洗う熊野地方は漬木綿香しく、景觀はまさに本邦に臨絶する所であるが、その經濟的な立地状件は極めて悪く然も本年の如き不況の年に於てはその極に達し、あまつさえ相續く災害の爲に完璧なぎまでに打ちひしがれてい。此のまゝに放置せんか、熊野地方の天與の大資源な枯かつし、憂患を百年の後に残す結果となるは必定である、此の時にあたつて行政執行の責を擔う市町村長の苦衷は察するに余りあるべく山積する問題の解決に寧日なき有様である。殊に新聞紙上を大いに賑わし、ニュースバリューの大きかつた、熊野ダムについては重要な問題とし萬縣民の眞剣に考處理せねばならむ。その他今東西半島郡の市町會に於て取りあげた問題を簡単に述べ、現在國民生活と、現在國民生活もひし／＼と感じる供米及び納稅の問題が主で、兩者成積の悪い本縣との向上方を懇請に熊野地方の特殊に依る、土木關係問題も多く取り上げ知事土木部長より答辯があつた、近期内サンマ等の不況に水產關係者の困惑で、漁法の改善と期の變更等につい議又地方稅制の變

一月七日より五日間に亘り、小野知事は、新任の熊本土木部長、大橋監理課長、及び寺本地方課長、根木食糧課長代理等と共に東西兩牟婁郡へ出張、隨所で町村長會に出席して供米の懇請、土木問題、その他萬般の縣政について懇談會を行つた。經濟金融界の逼迫一般行政の輻輳、その他困難な行政面の擔當者の討議とあつて、會は極めて眞剣に終始し、民主縣政の今後指針とする所多かつた。

山積する問題

小野知事、紀南市町村長會へ出席

依る觀光事業の影響等について勝浦、那智町あたりの要望、小川ダムの問題等、極めて數多い議題、要望について懇談會が行なわれたのである。

卷之三

木馬

めて地味な仕事にも拘らず、守吉場長以下場員の積極的な仕事に表

員の積極的な仕事に依り着々成果をおさえている。殊に椎茸菌の培

養について力を入れ、
その菌に依る優秀な椎
茸も既に出来てあり、

輸出面より考えて今後
が期待せられる。

1. 熊野綜合開發などにつ いて眞剣な討議

（新宮川丈町村長會）
2、
東牟婁郡中部町村長會
の模様

3. 充實する高池林業試験場にて知事の挨拶

卷之三

100

100

卷之三

卷之三

田柄川海岸の防波堤成る